

## 特別講演 2

### 「甲状腺疾患のやさしい診かた、考え方」

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌代謝内科 教授  
方波見 卓行 先生

診療報酬、施設認定要件の改訂により一層の病診、病病連携が求められ時代に突入した。当科では特色ある高度医療を実践する情報発信型の医療機関を目指し、逆紹介の促進に努めてきた。(過去 5 年間の逆紹介率は 100%前後) しかし外来患者は増加の一途をたどり、基本的に 1 つの外來ブースで年 900 人を超える初診患者と月 1,400 人以上の再診患者に対応している。

この状況を打破するためには、一人でも多くの GP の先生方にわたくし達が専門とする領域に興味を持っていただき、必ずしも大学病院での診療を要さない症例(治療不要だが、経過観察必要など)の診療をお願いするための環境整備が不可欠と考えられる。

そこで本講演では、最近ご紹介いただくことの多い甲状腺偶発腫の取り扱いを主体に話を進め、残された時間で甲状腺中毒症、機能低下症に関する診療の minimum requirement についても触れたい。